



巻頭言

総務局相談室長 小岩 裕一

教会や牧会者は、宣教や牧会の中で、自分だけでは手に負えない課題を抱えます。御言葉と聖霊によって支えられ、課題に取り組んでいます。また、先輩や同僚の先生方、教区内の先生方や教団委員、各局の先生方にも相談します。祈りに覚えられ、よい助言や知恵を与えていただき、励まされ、解決へ向かうことも多いことです。その相談先の一つとして、2020年4月「総務局相談室」が設置されました。相談室員（敬称略）は下記です。室長は小岩裕一で各相談室の総責任者です。

- 1, [ハラスメント（セクハラ・パワハラ）相談窓口] 担当者 木村勝志 仁科早苗 小岩喜代美
ハラスメントの情報提供 講演会、研修会の協力。ハラスメントの「相談者」への対応。
ハラスメントの専門家（法律、心理、キリスト教関係専門家など）との協力体制。
- 2, [異端・カルト相談窓口] 担当者 小泉創 船田献一
異端・カルトの最新情報の提供。 教会カルト化の評価と対応。講演会、研修会の協力。
被害者、被害者家族の相談。
- 3, [牧会カウンセリング相談窓口] 担当者 小岩裕一
教学局と協力しながら教師の相談に応じています。精神科やカウンセリングの受診の助言。
精神医療の情報提供。

上記の相談室員は、安心して相談していただけるように、まず第一に「守秘義務」を守ります。また、正確で間違いのない情報提供や迅速な初期対応ができるように、各分野の研鑽を積んでいきます。「行き詰まってしまう前に、ちょっと聞いてみよう」ということで気軽に窓口を活用していただければさいわいです。相談室が、主と各教会、教職者のお役にたつことができるようにお祈りくださると共に、助言、提言などいただければ感謝です。また、奉仕に加わっていただける先生方も募っています。



私たちの回りにあるセクハラ、パワハラ、モラハラ

～「牧会の羅針盤」（キリスト新聞社）や兵庫教区のハラスメント研修会資料より～
（教団内の事例ではありません）

ケース1 <牧師のパワハラ>

A牧師は30代後半で地方都市の中規模教会に赴任して2年目。ほとんどの信徒が自分より年長者である。ある日の役員会で牧師が新型パソコンの購入について議論した。なかなか牧師の思い通り話が進まない。昨今の献金収入の減少が気がかりな教会会計のBさんが購

入に反対の立場。議論の末牧師が顔を真っ赤にして怒鳴り始めた。「牧師を支えるのが役員の仕事でしょう。あなたの信仰が問われていて、祈りが足りないからそんな発想が出てくる。」Bさんはそれ以来礼拝に来なくなった。会計の議論をしていたのに、自分のキリスト者としての信仰について牧師から攻撃を受けたことに納得いかなかったのだ。

ケース2 <牧師のモラハラ>

C牧師は隣家購入問題で悩んでいた。しかし、信徒の高齢化に伴う財政規模の縮小の中での大きな支出に信徒の大半が消極的であった。何度か集会で議論しても少しも事態が前進しないことに業を煮やし、表面上は穏やかに、しかし別の方法で信徒に反撃を加え始めた。毎週の牧会祈禱の中で「あなたの招きを受けながら、隣家購入に消極的な私たちの罪をおゆるし下さい」と祈ったり、礼拝説教で隣家購入に反対する信徒の信仰生活を批判する発言を聖書の言葉を背景にして語ったりするようになった。

ケース3 <信徒のパワハラ>

D牧師が牧会している教会は会衆制の立場を持つ教会。社会のシステムを適用するならば、雇用者側である信徒から牧師に行われる「嫌ならやめろ」的な雇用を背景とした言葉の暴力を受けている。教会総会で牧師を批判する発言が職務上の範囲を逸脱して「人格攻撃」となっている発言も見られるようになった。

ケース4 <事件となったハラスメント>～宗教とパワハラ・セクハラ～

善光寺、大勸進のトップのセクハラ疑惑。

「回りにばれないように変装し遠出しようと複数の女性職員を食事に誘ったりしています」とセクハラ行為を告発した職員に対して、移動命令が出され、仕事がほとんどないように干された。

ケース5 <これもセクハラ？>

青年会活動に熱心な男性E牧師。教会に求道者として礼拝に毎週来る女子大生Fがいた。大学の聖書の時間のレポートを牧師に尋ねるなど熱心で、迎えるクリスマスには洗礼を希望していた。たまたま他の青年が礼拝にいないときに、Fが一人で礼拝後も残って週報棚の整理を手伝ってくれた。そこで牧師は「じゃ、昼食でも食べるか」と声をかけ外食、楽しく過ごしているように見えた。その後も何度か青年たちも一緒に食事に誘うことが時折あった。しばらくして、彼女は礼拝に来なくなってしまった・・・

実は、洗礼を受けたいと願っている女子大生にとって、牧師からの誘いは断れないものだった。彼女は「誘いを断ったら、礼拝に行きにくくさせるぞ。洗礼が受けられなくなるかもしれないぞ」と言われているように感じて食事に誘われることが負担だったのだ。これは「対価型のセクハラ」と呼ばれる一例で、学生が男性だったり、誘ったのが同性の牧師夫人だったりすると、状況が違ったかもしれない。



コロナ禍の中で私たちの教団でもネットの活用が急速に進みました。一般の人たちも今まで以上に、ネットの情報に触れることが増えています。異端・カルト団体はこれまでも積極的にネットを用いてきましたが、誰もが不安を抱え、先の見えない中においてなおのこと力をそそいでいます。

異端カルト団体はえてして立派なホームページをもっていますし、さまざまな手段を用いて近づいてきます。たとえば韓国異端のグッドニュース宣教会から、ダイレクトメールや電話を通してYouTubeセミナーに誘われた先生方も多いのではないのでしょうか。信徒の方がYouTubeで素敵な賛美動画を目にしたとき、それはブリガムヤング大学（モルモン教）のチャンネルのものかもしれません。

聖書を学ぼうと動画を探すうちに、異端ではなくても極端な終末論にふれてしまうこともあります。コロナの出来事や世界情勢を、黙示録と結び合わせて、焦燥感をあおるようなサイトもあります。誰にも先が見えない不安な状況の中、複雑な情勢を「明快に」言い切るのは魅力的に感じますが、あくまでも一つの見方にしかすぎません。5月に日本神学校神学科（韓国異端のタラッパン）から送られてきたメールには、岩手でコロナ感染者がいないのは、自分たちが神学校を建てたからだと誇らしげに書かれていました。

若者に近づいていくことも懸念されています。かねてからカルト問題を懸念する大学は、学生がキャンパスで簡単にLINE交換することを注意していました。SNSを通して人間関係を築いていったのちに、カルト団体への勧誘が行われるからです。後輩に心をかけてくれる信頼できる先輩、OBのようにふるまいながら、実は自分たちの情報は隠してカルト団体に勧誘しようと狙っています。コロナ禍でネット授業が増えて、実際に友達と出会う機会がなく孤独を感じている人たちにカルト団体が近づく危険性は増しています。

異端・カルト問題は、信仰を持っていない人にも、すでに信仰を持っている人にとっても、関係があります。そのような団体はキリスト教会の中にも入り込もうとしていますし、偏った聖書の学びを通して間違った方へ導くので聖書に関心がある人は格好のターゲットになります。

「にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。」（マタイによる福音書7：15）

この問題に関心をもっている方、悩んでおられる方の助けとなるために、異端・カルト団体についての情報提供と、相談受付をしていきます。身近で見聞きした問題、疑問に思っている団体、教えがありましたら、些細なことでもお気軽に情報をお寄せ下さい。

キリスト教異端・カルト情報サイト「異端・カルト110番」紹介

(<https://cult110.info/>)

教団総務局相談室長・異端・カルト110番共同代表 小岩裕一

近年の異端・カルトの特色は、指導者や教団の異端性を見分けることがむずかしくなっていることです。それは、正しい情報が不足していることに加え、異端側の偽情報が流布しているからです。その代表例が、クリスチャン・トウディ疑惑（張在亨）と、タラップン運動（柳光洙）と、グッドニュース宣教会の集会などです。

2019年10月に「異端・カルト110番」が開設されました。日本のキリスト教界では、韓国キリスト教界の実態や異端の最新情報を得ることができませんでした。しかし、このサイトには韓国の正確な異端情報が掲載されています。韓国の異端専門家の協力と韓国キリスト教メディアとの提携によって、最新情報を得ることができるようになりました。また、日本のキリスト教界の異端・カルトの専門家や弁護士もアドバイザーとして協力しています。

今後、教理変更や分派の動きが激しく、異端側の情操操作も活発な韓国異端の情報はこのサイトから得てください。日本では理解しにくい韓国の実態を、時系列で丁寧に解説しています。もし、その記事への批判情報があった場合には、相違点をよく吟味してください。異端側が「韓国では異端解除された」と主張したとしても、事実ではありません。大韓イエス長老会各派の「異端・カルト等指定の総会決議」も掲載していますので確認してください。異端側は、異端性を指摘している者に対して激しい個人攻撃を行います。

韓国異端は日本に侵入しようとする際、韓国で成功した方法を日本の社会やキリスト教会に柔軟に合わせる傾向があります。本当に見分けるのがむずかしい時代になりました。

最近の情報として、クリスチャン・トウディ疑惑に関して、日本ウェスレアン・ホーリネス教団の総会（2020年7月3日）で「調査報告書」が公表されました。詳細は「異端・カルト110番」に掲載しています。この問題の経緯と結論は正確に知っておく必要があります。福音派であり、きよめ派でもある日本イエス・キリスト教団も「対岸の火事」として傍観することはできません。このような見分けのむずかしい異端・カルト集団に侵入さないように注意を払う必要があります。その予防のための情報の一つとして「異端・カルト110番」をご覧ください。日本イエス・キリスト教団も賛同団体に入っています。

キリスト教異端・カルト情報サイト
異端・カルト110番

